# 昭和新山学習登山会参加者へのお願い：安全確保と自然保護のために

登山会では次のような事故に遭遇する可能性があります。
落石、滑落、崩壊、熱傷、交通事故、
けが、うちみ、ねんざ、呼吸困難（ガス）、　等
噴火（有珠山の予知は有望なので・・・前兆ある場合はもちろん中止！）
事故や災害は正確な知識をもってのぞむことが一番の備えです。

落石・滑落・崩壊

１）通常の自然条件
ドームは急峻な地形である、形成後約６０年を経て表面風化が進んでおり、また、融雪期で地盤が弱まっている場合は特に注意。
大雨またはその直後も不安定土砂や岩等が動きやすい。
地熱活動のため熱変質（粘土化）で滑りやすいので滑落にも注意。
→落石域は素早く通過し、長く留まらない。いつでも身をふせたり、退避できるように、付近の地形などをよく観察し、新しい落石が周囲に散乱しているかどうかで落石の危険性はかなり分かる。退避不可能な地点は素早く通過する。悪天時には無理しないこと。

２）一般の地震、前兆地震等の外力（十勝沖や南西沖では落石が一面に発生）
強風（特に稜線付近）でのバランス崩しなど。
→付近の地形等をよく観察し、急変に注意。

３）同行登山者の不注意や動物による落石（人為的）
→落石危険域ではおしゃべりせず、万が一、石を落としたら必ず「落石！」と大声で叫ぶこと。急斜面では前後の登山者の行動に十分注意のこと。
「落石！」という声を耳にしたら直ちに直撃を避ける行動をとること。
特に危険な斜面などでは、保護者は子どもにぴったり付き添い注意する。

→→→→
落石や崩壊、火傷の危険性が高い地点はかなり分かっています。
現場での注意をよく聞いて行動してください。

登山ルートに沿って地点別の注意事項を以下に記述

１　珊瑚岩直下（広場方面から右回りで登るルート、左周りはもっと危険）
落石岩塊の多い地域は短時間で登る（事前に呼吸を整えてから）
屋根山方の部分ではドームからなるべく離れる、落石確率の低いルートを

２　ドーム南肩から屋根山南へ降りるルート
急峻なため落石を誘発しやすい地点、十分な間隔をとって降りる。
それでも落石を誘発させた場合は「落石！」と大声で叫ぶ。
ドーム上部は大きく崩れたことはないが、屋根山との落差が大きく万一の崩壊時はきわめて危険。特に屋根山へ降りた低い地点ではドームから離れ、素早く屋根山中央部に進むこと。ブッシュの刺に注意。
上部の噴気孔はドーム生成半世紀後にもかかわらず最高　　度程度の高温を未だに保っている。大崩壊の場合は高温岩なだれか？

３　屋根山北東部斜面横断ルート
落石および滑落・転落に注意、北側に回り込むと粘土質で滑りやすい場所もある。
一部のブッシュは刺があるので注意。

４　亀岩付近

高温噴気・地熱帯であり、噴出温度は一部で　　度程度に達する。噴気による火傷と、熱変性した高温地下空洞の踏み抜きに最大の注意を払うこと。大きめの岩伝いに足をおくと踏み抜くことは少ない。腰を降ろしたり荷物などを置くときは高温でないことを確かめること。亀の甲岩付近を取り巻くように凹んでいるのは、このような熱変性が進んでいる証拠である。

高温噴気は見えないことがある。素手をかざして温度を見ようとすることは非常に危険。手首・足首はすべて衣服や手袋・靴・靴下で覆っておくこと。料理の際、熱風で焼かれぬようスコップ、火ばさみ、棒などを活用すること。高温なので注意。風向きが変わると高温の噴気やガスにまかれることがある。幸い、最近の昭和新山亀の甲岩の現在の噴気は、有毒ガス成分が少ないことが分かっているが、巻き込まれたり深く吸い込まないようにする。他の火山では毒性の非常に強い火山ガスを含む場合が多いので、ここでの経験から、分かったつもりでこの程度なら大丈夫だと、素人判断をしてはならない。今世紀、日本で火山ガスの死亡事故は２４件、犠牲者は４０名を超えている。いずれも噴火時の事故ではなく登山者や入浴者が犠牲になっている。

５　ドーム山頂往復

亀の甲岩からドーム山頂への登り口は「蟹の横ばい」でステップ足場を利用して通過する。急峻な壁の横断は短いが、滑落・転落の危険性がある。風向きにより途中で強い噴気に巻き込まれるおそれあり。必要以上に足がすくんでしまう場合があるので、下方を見ないこと。なれた者が先導するのもよい。特に子どもは手を引くなど支援が必要。壁を横断した後、山頂へのルートはたやすいが、落石や地熱帯での踏み抜きやスリップの危険性に注意し、気を許さないこと。変色している地帯は踏み抜きの可能性が高いので避ける。稜線部はきわめて危険なので案内人より先に近づかないこと。

６　ドーム山頂稜線部

ドーム山頂の稜線は、かなり手前までひびが入り昭和新山広場方向へ崩壊寸前の場所が多いので、案内者の指示を守り、うかつに稜線に近づき下を展望しようとしないこと。北ピークの北側の稜線部は広い範囲できわめて不安定である。山頂では崩壊・転落の危険性が高い。北ピーク（最高点）は狭く、また崖側は不安定で手前も急斜面であり、少数の者しか一度に取り付けない。

　南ピークに伸びる稜線で広場側に突き出した三角形の平坦部は、一見安全のようであるが、全体がひび割れブロックとなっている（南西沖地震で割れた）ので、絶対に乗らないこと。南ピークへは案内者の指示を求めること。

７　屋根山北斜面下山ルート

東西の屋根山ローブの境をなす谷地形沿いに下山する。途中きわめて急峻な崖があり、滑落しやすく危険なので十分注意を払うこと。滑落し先を行く登山者に衝突したり、落石を誘発させぬよう、間隔に注意。残雪があったり、ぬれている場合は特に危険である。樹木や刺のあるブッシュが多いので、顔や頭を引っかけたり、傷つけないように。

８　ドンコロ山道路（町道昭和新山第２線）

新道が開通し、４ｍの歩道が整備されたが通過車両、交通事故に注意。

昭和新山は、支笏洞爺国立公園にあり、また溶岩ドームは特別天然記念物です。

「とってよいのは写真だけ、置いていくのは足跡のみ」がルールです。

岩石、植物等の採種や動物の捕獲は、自然保護のため法律で禁止されています。

ごみはすべて持ち帰ってください。風でビニールなどを飛ばさないように。

次世代にすてきな自然を残すために、ひとり一人の力が必要です。